

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	<p style="text-align: center;">呉 映璇 【比較社会文化学専攻 平成25年度生】</p>	要 旨
論文題目	<p>台日接触場面における合意形成会話に関する研究 —台湾人上級日本語学習者と日本語母語話者を中心に—</p>	<p>本研究は、JFL 環境の台湾人日本語学習者と日本語母語話者との台日接触場面における合意形成会話での台湾人日本語学習者と日本語母語話者の言語行動の相違点を明らかにし、異文化間コミュニケーション教育に寄与することを目的とする。話題提起から意見を表明し、相手と話し合い、結論に至るまでの会話を分析対象とし、発話カテゴリーに着目して研究を行った。</p>
審査委員	<p>(主査) 教授 佐々木 泰子</p>	<p>本研究は、以下の3つの研究から構成される。まず、研究1は合意形成会話の全体的構造に着目し、学習者と母語話者それぞれが担当する役割があり、その役割を十全に果たすことで合意形成に至ることが明らかになった。次に、研究2では同意表現の実態を考察した。その結果、「実質的な発話」により同意を表明する例はほとんど見られず、学習者、母語話者、いずれも相づちのみで同意を表明する傾向があること、学習者は前発話の話者である母語話者の発話に依存して発話をする事、母語話者は同意表現を重ねて使用する傾向が示された。そして、研究3では「まとめ発話」について分析した結果、学習者は会話の途中で今まで話してきた内容を一度まとめてから話し合いを続ける特徴があるのに対して、母語話者は会話の途中及び終了部の二か所でまとめ発話が見られるということが明らかになった。また、会話全体をとおして母語話者にはまとめ発話が多く、母語話者は会話のまとめ役を担っていることが示唆された。</p>
	<p>准教授 山腰 京子</p>	
	<p>講師 加納 なおみ</p>	
	<p>助教 石井 久美子</p>	
	<p>准教授 ALLEN DAVID BRIAN</p>	